

地方でひとり暮らし義父が心配

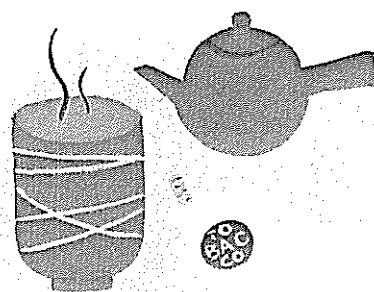
夫 の父(76歳)は、新潟にある実家でひとり暮らしをしていま

す。義母は1年前に亡くなり、夫の妹は広島に嫁いでいます。義父は趣味もなく、義母が亡くなってからは近所づきあいも親戚づきあいもしていません。料理は一切できないため、食事はコンビニ弁当や出前で適当に済ませているようです。

高齢なので都内の我が家で同居しないかと提案していますが、義母や家族との思い出がまった実家に愛着があるようで、「地元を離れる気はない」の一点張り。それならば一緒に旅行でもしようと、気晴らしになりそうなプランを持ちかけても、出かけるのは億劫なようで断られてしまします。

最近では、こちらから電話をしても「特に変わったことはない。電話代がもったいないから切るよ」と会話も続きません。

我が家はまだ子供も小さく、私や夫が新潟まで定期的に通って世話をするのは現実的ではありません。とはいえ、実家でひとり、会話もなく毎日を通じている義父の姿を想像すると、心配は募るばかりです。



回答者

本庄有由

NPO法人「人と人をつなぐ会」理事長

相 談者のお義父さんは、私と似

た状況にありますね。私自身も8年前に妻を亡くして以来ひとりで、暮らし。料理も掃除もまったくダメで、妻から自治会の役員を引き継ぐまでは、近所づきあいもありませんでした。私が暮らす新宿区の戸山団地でも高齢化が進んでおり、住民の52%が65歳以上。4年前には13人の孤独死も出ています。それを目の当たりにしたのを機に、NPO法人

「人と人をつなぐ会」を立ち上げました。ですから、相談者が独居のお義父さんを心配するお気持ちにはよくわかります。とはいえ、高齢者にとって長年住み慣れた家を離れるのは精神的な負担が大きく、外出を苦痛に感じることもあるでしょう。旅行に誘っても断られる、会話が続かないというのも、その裏に「子供に迷惑をかけたくない」「照れくさい」といった遠慮が隠れているのかもしれない。□下手で不器用な、私たちの世代の男性ならなおさらです。

そこで提案したいのが、家族の近況を知らせるビデオレター。子供の運動会や誕生日などのイベントをホームビデオで撮影し、DVDにして送ってあげれば、お義父さんにも好きなときに楽しんでもらえます。定期的なこちらの近況を知らせる手紙や絵はがき、メールなどをお孫さんから送っても喜ばれるかと思えます。

お義父さんの家に行った際、ご近所や行きつけの商店などに挨拶をして「もし父に何かありましたらご一報ください」と、東京の連絡先を書いたメモを渡してくるのも一案です。また、数年前から私たちNPOが

相談者
東京都
パート・45歳

取り組んできた、「見守りケータイ」のサービス利用もおすすです。朝、利用者が携帯電話を開くだけで指定の宛先に安否確認のメールが自動的に届くほか、ワンタッチボタンを押せば、ダイレクトに「見守りケータイ・コールセンター」につながります。365日24時間機能しているコールセンターには、利用者の身体状況や、かかりつけの医療機関、支援者・家族情報などが登録されており、万一のときの救急輸送手配もスムーズにGPSによる位置検索や緊急プザーのサービスもついています。

こうした交流ツールを使いながら、家族・コールセンター・社会福祉協議会などの行政が一体となって高齢者を「見守る」。それができれば、「孤独死」は起きないのではないかと思います。どうぞいつまでも、お義父さんを大事にしてくださいね。



ほんじょう ありよし 2007年にNPO法人「人と人をつなぐ会」設立。「見守りケータイ」に関する問い合わせは ☎03-5330-3795まで <http://npoppj.com/>